2006/6

大阪府立大学　看護学部
現代 GP　採択プログラム「看護実践能力の獲得を支援する e-Learning」
国際シンポジウム「*未来を切り開く人材育成　ユビキタス・ラーニングの新しい展開*」を開催

大阪府立大学で、平成 17 年度現代 GP 採択プログラム「看護実践能力の獲得を支援する e-Learning」のプロジェクトの一環として、国際シンポジウム「未来を切り開く人材育成　ユビキタス・ラーニングの新しい展開」を平成 18 年 5 月 27 日（土）午後より、本学羽曳野キャンパス講堂で開催した。大学等の教員、病院の看護職、看護学部の学生、大学院生を中心に約 150 名が参加した。参加者からのアンケートでは、これからの e-Learning を活用した人材育成や教育方法に対して期待する意見が多く寄せられた。

● 基調講演

神戸製鋼所ラグビー部　ゼネラルマネージャーの平尾誠二氏より、「コーチングの新たなる可能性を探る～「個」の活性化から「組織」の活性化へ～」と題して、組織論、コーチング、新しいリーダーのあり方などについて講演された。平尾氏の講演の Keyword は「主体性」である。最近の若者の気質は、「反撥係数（叱られても頑張る力）」と「連鎖反応（他者に共感する力）」が低下している。その人たちのモチベーションや主体性を高めるために、指導者にとって必要な事について述べられた。すなわち、人は「正しいこと」だから好きになるのではなく、「おもしろいこと」、「楽しいこと」だから好きになり、主体的に取り組めるのである。スポーツなどの技能は練習を続けることで、必ず上手になるので、継続してやらせるための工夫が指導者には必要になる。更に「チームワーク（仕事：義務）」ではなく、「チームプレイ（遊び：楽しみ）」のできる組織作りが必要であり、そうした組織が「主体性」を持った人材の育成に繋がっていくのである。

● 現代 GP　CanGo　プロジェクト取組概要の紹介

本学看護学部の現代 GP プログラムである「看護実践能力の獲得を支援する e-Learning」について、真嶋由貴恵助教授よりプロジェクトの概略および平成 17 年度の活動実績などが報告された。

● シンポジウム

米国より、ピッツバーグ大学教育研究・開発センター(University of Pittsburgh, Learning Research and Development Center)のクワンス　チョ(Kwangsu Cho)博士から、「次世代　e ラーニングモデル　収束学習」と題して、公式的学習の非公式化と非公式的学習の公式化におけるユビキタスコンピューティングでの実践方法について報告された。カーネギーメロン大学計算機科学部(Carnegie Mellon University, Human Computer Interaction Institute School of Computer Science)の松田昇博士からは、「ロバスト学習のためのロバスト学習理論の構築」と題して、ピッツバーグ学習科学センターの Learn-Lab プロジェクトで取り組まれている ITS（Intelligent Tutoring System）「Cognitive Tutor」の活動とその背景にある学習者の特性、学習理論について報告された。

日本からは、徳島大学医学部・歯学部附属病院の森川富昭博士（医療情報部）と宮川操氏（看護教育支援室）により、「e-Learning を用いた看護現任教育の効果」と題して、医療機関の問題点とその解決策としての ICT（Information and Communication Technology）戦略、看護現任教育での e-Learning の具体的な実践活動およびその評価、人事効果等への利用を含めた今後の展望について報告された。

●CanGo プロジェクトの今年度の活動は、昨年度制作した *e-learning* 教材を使った教育実践である。次回は、その報告も兼ね、看護教育分野での *e-learning* の普及・推進を図ることができるような会を開催したい。

国際シンポジウム（2006.5.27）　実施報告

１）　参加者数について

出席者　所属別状況　　（事前申込者数 175 名）

所属	学校関係			病院関係	その他（企業等）	合計
	看護系	その他	学生			
計	62	7	24	52	5	150

（単位/名）

２）　アンケート「意見・感想」より抜粋

「基調講演・シンポジウムについて」

・基礎講演、シンポジウムとも素人でも分かりやすい内容でとても良かった。子供の教育の参考になりました。
・基調講演(講師)平尾さんの話が非常に面白かった。
・シンポジウム：徳島大学病院の具体的な取り組みはよく理解できた。
・非公式な学習を公式化することは有効と感じた。これを看護の場でどう生かすのかがまだ考えつかない。

「今回の“プログラム”全体について」

・e-ラーニングを看護師教育に生かせたら、よりよいものになっていくと思う。
・私の勤務する病院でもe－ラーニングが取り入れられればいいのにと思う。
・とても夢がひろがる内容でした。e-ラーニングを実際の現場でどのように使用できるのかと色々と想像できた。
・研究のレベルから実践までと範囲が広くて楽しめた。
・（課題や方向性などの）今の動きが理解できた。
・e-ラーニングは講義の不足部分に視覚教材を使うことで補完できる方法で、今後取り入れていきたいと思う。

・もっとたくさんの人々に聞いていただきたい内容であった。
・全体的に時間が少ない。

その他沢山のご意見をいただきました。